

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470500677	事業の開始年月日	平成15年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり		
所在地	(〒232-0042)		
	横浜市南区堀ノ内町2丁目136番地の3		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員計	9名
自己評価作成日	平成24年10月16日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月11日
		工外数	1工外

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個性を尊重した介護によって、平均介護度が高いにもかかわらず、穏やかで明るい生活を過されている。

- ・今の暮らしをより安心して安全に過ごして頂けるよう、協力医療機関と医療連携をとり、24時間連携体制を確保。また、最後を住み慣れた「みのり」で過ごしたいと強い希望のご利用者、ご家族は医師、看護師の協力のもと看取り介護を支援している。
- ・食事については、生活の中で特に大切なことと捉え四季の食材を産地まで仕入れに行き、また、良質な水を富士山まで汲みに行く。調理スタッフも家庭的な味にこだわり、おいしい食事を提供している。
- ・残存能力をいかした音楽療法や能力トレーニングを行い、脳の活性化に役立てている。また、寝たきりにならないよう離床時間を確保し散歩・体操・レクリエーション等により筋力低下を防いでいる。
- ・炭酸泉による足浴のほかタオルで、顔、手、頭皮を拭き、足の血流を良くし、気持ち良さを味わってもらえるよう支援を行っている。また、毎食後の口腔ケアは、言葉がはっきり出せるようになった等、効果をあげている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年10月29日	評価機関 評価決定日	平成25年2月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所概要】
この事業所は、横浜市営地下鉄ブルーライン蒔田駅から徒歩7分、大通りから少し入った所にある。周辺は商店や住宅が混在しているが、案外と静かな環境にある。3階建ての1階、3階を居室に、2階を居間・食堂、談話室などの共用部分にしている。エレベーターが設置され、利用者は自由に行き来している。2階のベランダに盛り土をして庭を作り、四季折々の花が咲く草木を植え小鳥が訪れる様子を楽しんでいる。「皆が一緒に」を合言葉に、家庭的な雰囲気の中で利用者、職員が協力し合い、穏やかに過ごしている。

【楽しみながら残存能力を生かす支援】
事業所では認知症の進行予防を兼ねて、ケアマネジャーが中心となり毎日歌を歌い、歌詞を朗読する音楽療法を行っている。ジャンルを問わない様々な選曲で、昔を思い出したり、利用者の知識を発揮する場になっている。ストレスの発散や健康維持にもつながり、利用者全員で楽しんでいる。またレクリエーションで行うボーリングは、利用者が最も熱中するゲームで、点数計算も脳の活性化に役立っている。算数のドリルやパズル、トランプ、かるた、切り絵なども用意している

【食事へのこだわり】
「食事は楽しみや喜び、癒し、そして満足感を与えるもの」と捉え、食事を大切にしている。旬のもの、良質の食材を産地まで買い出しに行き、水は富士山麓の湧水を汲みに行っている。栄養バランスを考えながら、味、盛り付け、食器にまで配慮した食事を提供している。また、週に1回は「マグロの日」として新鮮な刺身を出している。毎日のおやつに出されるゆずジャムや漬物も事業所で手作りしている。季節の行事に合わせた食事、誕生日での寿司や赤飯、外食も利用者の楽しみになっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みのり
ユニット名	

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング申し送り帳など多くの機会に理念を共有、確認している。これを日々の生活支援に生かしている。理念を誰もが目に付くよう、エレベーター横に掲げてある。	3項目からなる事業所理念は、各階に掲示され、日々のケアに反映されている。事業所で受け入れている実習生のオリエンテーション時に、職員自身が事業所理念を説明することで理念の再確認や共有が図られている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は散歩に出掛け、地域の人達に声を掛けたり、掛けられたりしている。季節の花を届けてくれる人、通るのを待っていて犬を外に出してくれている人、体調を気遣ってくれる人もいる。	町内会に加入して、地域の神社の豆まきや夏祭りに参加している。散歩や買物に出かけ、地域住民と挨拶を交わし、話をしたりして日常的に交流している。事業所では、地域住民から介護についての相談を受けることもあり、地域の相談拠点としての役割を担う取り組みをしている。	様々な形態の地域のボランティア活動を受け入れ、その人々を通して社会との接点を持ち、地域との交流がより深まるよう期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方に認知症について介護予防などの手作りの小冊子を配り、相談できる場として声をかけている。	/	/
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練を会議の中で実施、意見交換して避難場所について話し合いをし、確認を取り合った。活動状況を報告することにより地域の方も地域で出来ることは「みのり」に対して協力体制を整えてかれている。	運営推進会議は、年に3回開催している。利用者の近況や事業所の活動内容、外部評価結果などについて報告し話し合いをしている。会議の開催に合わせて行った防災訓練では、避難場所についての検討をし、確認を取り合っている。	事業所では、運営推進会議の活性化のため、構成メンバーの拡充を視野に検討を進めています。地域の人材を幅広く活用することで、会議がより有効に機能し、開催回数も自ずと増えてゆくことと思われれます。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断、理解が出来ないときは相談し、指導を受け、確認しながらケアサービスに取り組んでいる。市に運営推進会議の内容を報告し「みのり」の活動状況を伝えている。	南区役所には、看取り加算の申請など介護保険関係の手続きの相談や空き情報の交換、運営推進会議の報告をしている。横浜市のグループホーム連絡会に参加して、現場職員の交換研修などを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は機会があるごとに、外部研修、社内研修を受け、身体拘束をしないケアの具体的な行為を正しく理解し、ミーティング等で確認している。但し、防犯・安全面の配慮から、1Fに職員いなくなる時は施錠を行う。	身体拘束は行わない方針で、契約書に明記し実践している。職員が外部研修に参加して、その内容を報告、回覧して周知徹底を図っている。長時間、車椅子に座らせることや言葉による制止にも注意している。1階に職員がいなくなる時だけは、防犯のため道路に面している門扉を施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修を内外で受け、スタッフ一同で共有している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用しているご入居者はいないが、今後、必要な時に対応できる様に研修を受けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかり説明を行い、同意を得ている。ご家族が来所された折には活動状況等を報告し、コミュニケーションを持ち、よい関係を作り出し疑問や不安を表に出しやすい環境にしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と職員の連絡を密にし、よりよいケアを実現する事を目的に意見や要望が出しやすい環境作りを心掛けている。ご家族が面会に来所なさった折には、職員皆が積極的にコミュニケーションを取っている。	家族には、来訪時や電話、毎月の手紙などで利用者の近況を知らせ、意見や要望を引き出すようにしている。家族会や運営推進会議、行事などの参加時にも意見を聞いている。家族からは、今後の相談などが寄せられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや業務の合間に意見交換が出来る態勢を作り、整えている。状況の変化に応じて現状に合った提案をサービスに繋げている。	毎朝のミーティングやスタッフ会議で意見や提案を出し合い、話し合いをしている。管理者は、日常業務の合間に、職員から話を聞くよう努めている。足浴時のケアの方法、浴室のカーテンの取り付け、シフトのつけ方など様々な提案が出され、利用者へのケアや運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善の計画を立て、キャリアアップの目標等、社会労務士の指導を受け、整えている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けやすいように職員の勤務体制を整え、各職員が必要としている研修が受けられるように配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修、現場交換研修に参加、同会社の他施設へのヘルプ業務を行い様々なケースを学びサービスの向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族にゆっくりと見学してもらい、不安、要望、生活暦を傾聴し把握する。穏やかに安心して生活が出来る場であることを伝えられる関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いが話しやすい対応と雰囲気作りに努めている。カンファレンス、申し送り帳等でその都度の状況をスタッフ一同で共有する。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一日の生活状態を観察し、必要な支援を把握、理解して、申し送り帳等に記録し、職員がケアの統一化を図り、共有するように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来ることを把握し、掃除・植木の手入れなどを共に行い、ご本人の力が発揮できる場面を作って、支えあう環境を作っている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	散歩等にも一緒に参加していただき、ご家族と協力しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者の大切にしてきたものを、すぐ目に付くところに置いたり、写真、手紙等を居室に飾って楽しめる様に工夫している。又、ご家族の来訪を歓迎し、ご入居者と共に外出の機会を持てるようにしたり、美容院・郵便局等、ご入居者の希望する場所に職員が付き添って出掛け、馴染みの人や場との関係が途切れないようにしている。	馴染みの人や場所は、入居時のアセスメントや利用者との日頃の会話、家族からの聞き取りで把握している。事業所には家族、親戚、友人などがほぼ毎日のように来訪している。家族には墓参りや食事など利用者と外出する機会を持つよう積極的に働きかけている。電話や手紙での連絡を取り持つなど、つながりを継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で何かをするということで連帯感が生まれ、ゲーム中も互いに応援しあったり声を掛け合ったりしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	折りにふれて転居先に出掛け面会し、面会の様子を申し送り帳に記録の上、職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段さりげない会話の時などに、言う言葉も聞き逃さないように努めている。	利用者の話をよく聞き、「～したい」や「いや」という意思表示を尊重している。意向の把握が困難な利用者には、表情やしぐさから推し測り、それとなく確認をして把握している。介護計画の希望欄には、利用者の発した言葉そのままを記載し、新たな「気づき」は、申し送りノートやケア記録で共有して、その人らしく暮らし続けられる支援をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表をすぐに見える位置に置き、また申し送り帳を活用し、そのご入居者を理解、把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で勤務中のミーティングや申し送り帳、勤務交代申し送りで、新しい発見や本人が話したさりげない言葉、一日の状態、ADLを共有し、職員全員が把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者のご家族の意向を良く伺い、これを大切に介護計画に反映できるようにしている。又、職員間でミーティングを持ち、その時点でのADL、生活状況等を把握し、訪問看護師、訪問マッサージ師の見解も取り入れて、今後の方向性も含めた介護計画を作成している。	介護計画は、利用者、家族の意向を踏まえ医師、看護師などの意見を取り入れ作成している。スタッフミーティングでの話し合いや職員から聞き取った意見を参考に、計画作成担当者がアセスメント、モニタリングを行っている。見直しは短期で3ヶ月、長期は6ヶ月毎、利用者や家族の要望や状況の変化があった場合は、その都度行っている。	

27	<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>見やすく、分かりやすい記録を目標とし、申し送り帳も利用して職員間の情報共有を行い、常にケアマネジャーと連携し、日々のケア、介護計画の見直しに役立てている。</p>		
----	----------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者、ご家族の変化するニーズに対応できるような支援を行い、場合によっては、他の社会資源・施設等との連携もはかっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩で利用する公園や神社にお参りに行っている。ケアプラザ等に行き、多くの人に出会い、他施設へのイベント参加により地域交流を図り、日々の暮らしを楽しんでいただけるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者、ご家族の希望を大切にしているので、それぞれ、入居前の主治医を受診する方、事業者の連携医を受診する方がいらっしゃる。どちらの場合も、ご家族、医療機関との連絡を密に取っている。	入居前からのかかりつけ医を受診している利用は2名で、通院は家族が対応している。必要に応じて職員が同行したり、事業所から医師へ手紙で問合せをしている。受診結果は、家族から報告を受け、職員間で共有している。協力医への通院も外出の機会と捉え、訪問診療を受けず、職員が通院支援をしている。毎週訪問看護師が来訪し、健康管理や相談にあたっている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご家族の同意を得て、訪問看護師が毎週一回、健康チェックを行い、24時間相談できる態勢を整えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のかかりつけ医と連携をとり、診療情報の提供を受け、退院後の生活を安心して行えるよう支援する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化に関する指針を説明し、同意を得た上で医師、看護師、家族を交えて話し合い、方向性を確認し、看取り介護を支援している。</p>	<p>入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し、同意を得ている。看取りについては、利用者、家族の希望を受け、前向きに取り組み、昨年度の目標達成計画に「チームで支援できる体制作り」を挙げている。ターミナルケアについてのマニュアルを作成し、研修を行い支援体制を整えている。3月には、家族、医師、看護師、職員間で話し合い、支援方法を確認しながら看取りを行った。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急蘇生講習に職員は、順次に参加している。緊急対応マニュアルを目に付くところに掲示、確認している。</p>			
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>職員がご入居者をどのように安全な場所に誘導できるかのシュミレーションを行い推進会議の場で地域の方と意見交換を行っている。</p>	<p>防災訓練は、消防署の協力を得ながら、夜間想定も含めて年に2回行っている。運営推進会議と併せて実施した訓練では、参加者と避難場所についての相談、確認をしている。職員も地域の防災訓練に参加し、地域との相互の協力体制を整えている。非常食、飲料水は地域住民の分も含めて備蓄している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、ご入居者の尊厳を大切にし、皆さんの前での介助は、さりげなく行っている。声掛けの言葉にも気をつけている。	事業所理念にある「尊厳のある生活を送ることができるケア」を心がけている。入職時には、利用者の人格の尊重、接遇、プライバシーの保護について説明をしている。社内研修を行い、声かけなどで気になることがあった場合は、職員間でも注意し合い、周知徹底している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は閉ざされた質問をしないよう心がけ、ご本人がどうしたいのか、何でも言える雰囲気作りや関係を築くように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のペース、リズムは大体決まっているが、その都度要望を聞いて柔軟な対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着るものの支度は、ご入居者の好みを大切にして、一緒に洋服選びを行っている、また希望によっては、お化粧品のお手伝いもしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、配膳・片付けを職員とともにしている。	事業所では、食事を生活の中で特に大切なこととして、おいしい食事を提供している。良質の素材を産地まで買い出しに行き、水は富士山麓の湧水を汲みに行っている。利用者と職員は、同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べている。利用者によっては、後かたづけやテーブル拭きなどを行っている。行事食、外食なども利用者の楽しみの一つとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理に配慮して食事量や水分摂取量を記録している。嚥下困難の方にはトロミを付けたり、ゼリーで水分確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	連携している歯科医より、助言をもらい、磨き残しがないよう、歯間ブラシをあてたり、舌苔をきれいにするケアをひとり一人に支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、声掛けし、トイレでの自立排泄を支援している。	利用者個々の排泄パターンを把握し様子を見守りながら時間を見計らって声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。さりげない誘導を心がけ「～させてください」と利用者の許可を取ってから介助するようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、排便状況を記録している。10時のおやつは腸内環境を整える一助としてヨーグルトやバナナ・手作りジャムが定番になっている。又、野菜が沢山取れるように献立の工夫をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、夏場はこの限りではなく状況に合わせて適宜行っている。入浴希望があれば、入浴日以外でも対応し、体調によっては、シャワー浴、清拭を行う。	入浴は、週に2回程度が原則となっているが、希望があれば柔軟に対応している。洗面所のボードに、当日の入浴予定者の名前を掲げ利用者自身が確認をしている。多くの利用者が職員と話をしたり、マッサージを受けながら長時間の入浴を楽しんでいる。入浴予定日でない利用者は炭酸水の足浴をしながら髪、顔の清拭をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望を尊重している。布団干しやリネン交換などこまめに行い、居室の温度・湿度・換気・採光に注意している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りやお薬情報を確認している。必要に応じて薬本を見て勉強し把握を行っている。薬剤師を講師に招き、社内研修をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや得意なことを把握し、縫い物、洗濯物たたみなどを職員と一緒にしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や美容院、病院等へご家族や地域の方の協力を得て行っている。郵便局の局員の方も利用者の行動を見守ってくれている。一人ひとりの希望に沿うよう個別対応をしている。	天気の良い日は車椅子の利用者も一緒に、近隣の神社や公園に散歩に出かけている。法人内の他の事業所の行事に参加したり初詣や花見、もみじ狩り等に出かけ、帰りには外食も楽しんでいる。買物や自宅への送迎、家族との外出など個別の支援をしている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方、管理を任せたい方等との状況に合わせてお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただいている。ご自分でかけられない方は職員がお手伝いし、掛かってくる電話は取り次いでいる。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が常に快適であるように、清潔な環境づくりに努めている。2Fベランダにある庭には、四季の花が咲き小鳥が訪れる姿を見ることができ、入居者さんに楽しんでいただいている。	居間、台所は明るく清潔である。談話室は、ピアノやテレビが置かれ利用者はソファにゆったりと座ってゲームをしたり、ピアノに合わせて歌を歌ったりしている。季節の花や利用者の作品が飾られている。日中は、ほとんどの利用者が居間や談話室で過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階に椅子・ソファがあり、お一人でくつろいだり利用者同士で談笑したり、テレビを観賞したりされている。また、職員がいなくてもご自分で出来るよう、テレビのリモコンの位置を固定している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台、箆笥、お仏壇等、利用者さんのなじみ深い物を、引き続き使っていただき、家族の写真・手紙等も飾ったりして、それぞれの好みに合った居心地の良い居室作りに努めている。	居室には、馴染みの家具や鏡台などが持ち込まれ、家族の写真や利用者の作品が飾られている。タンスの引き出しにラベルを貼り、中に入っている物が利用者にも取り出しやすいように工夫している。利用者によっては、職員と一緒に自室の清掃をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室ドアの横には名札を貼っている。場所の名称、名札を飾ったり、一日のスケジュールを居室内に貼っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみのり

作成日 平成25年 2月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の活性化。	メンバーの拡充。	地域の人材を幅広く活用する。	5ヶ月
2	2	地域との交流をより深める。	地域ボランティア活動の受け入れ。	ボランティア活動の人々を通して社会との接点を持つ。	1年間
3		夜間出火想定・昼間出火を想定した避難訓練の実施。	消防署立会いの下、地域の方、睦ヶアプラザ、御家族を交えて避難訓練を行う。	職員は地域の防災訓練に参加、地域との協力体制を整えている。	1年間
4		感染症のマニュアル見直し。	ノロウイルス・インフルエンザ感染症を、持ち込まない、拡げない。	感染症についての社内研修。	1年間
5		外出支援	初詣で、お花見、夏祭り、バラ園見学、紅葉を見に行く。帰りには、外食。 天気の良い日は散歩や買い物に出掛ける。	全員で参加できる様、地域の方、御家族にも協力を頼み、人や場所との関係が途切れないようにする。	